

キャリア教育を考える

「目の前の子どもが大人になったときに、どうなって欲しいか？どうあって欲しいか？」について、子どもの目の前の姿だけでなく、将来を見通し、イメージして、なるべく早い段階で子どもの特徴を理解し、教え育てることが大切です。キャリア教育は職業教育だけではなく人生教育ともいえます。子どもが、自分らしい生き方を見つけることができるように親や周りの大人は支えていきましょう。

* * * * *

就職後、仕事をすぐに辞めてしまった人と5年以上働くことができた人の差はどこにあるのかを植草学園大学が調査した結果は以下のとおりです（特別支援学校教員、中学校教員、普通科高等学校教員、企業の障害者雇用人事担当者、障害者の保護者等にアンケートを依頼し、95名分の回答を得た結果）。

●基本的な生活習慣・性格

規律…決まった時間に起床、就寝ができる。規則正しい食事をする。「おはよう」「さようなら」など挨拶が言える。

自律…出かけるときに必要なものを一人で準備ができる。使ったものを元に戻すことができる。

性格…注意を素直に受け入れる。嫌いなことでも取り組む根気がある。情緒が安定している。

●周囲と繋がる力

自己理解…「私にはこういうところがある」と人に自己開示できる。どういう接し方や言い方をされると理解できるのか分かっている。趣味等をもっている。

対人行動…嫌なことは断れる。どうしてよいか分からないとき「どうしたらいいですか？」と聞くことができる。周りの人と自分の考えが違っていても上手くやっけていける。

言語化…人に何かしてもらったときに「ありがとう」と言える。作業が終わったときに「終わりました」と言える。敬語が使える。

対人参加…地域の行事に参加できる。仲のよい友達がいる。

●環境

周囲の理解…周囲が個人の特性を理解し、配慮している。得意なことを生かして職に就いている。職場が保護者と連携をとっている。

* * * * *

岩手県総合教育センターの特別支援教育ステップアップ研修講座Ⅲ「キャリア教育の視点からみた授業づくり」には、企業の人事担当者は「基本的な生活習慣ができていない人は仕事を教えてもすぐにできるようになる。仕事は会社で教えられるが、基本的な生活習慣は社会に出てからでは遅い」というようなことを話しますと書かれています。つまり、日常的なことや当たり前のことを言われなくても自然にできることが大切であるということです。

日本では、キャリア教育を「勤労観、職業観」を育てる教育として考える風潮があります。このような考え方によって、勤労や職業、学業に焦点を絞り、教育をする偏りを招いています。これでは、社会的・職業的自立を基盤として支える能力や態度の育成の視点が見落とされがちになってしまいます（「態度」については Co だより第 39 号参照）。

キャリアとは、人生そのものです。キャリア教育とは、すなわち人生教育とも言えます。人生には職業面と個人生活面の 2 つがあります。キャリア教育を「職業教育」と考えてしまうと個人生活面が抜け落ちてしまうのです。これに対し、キャリア教育を「人生教育」と考えた場合は、職業面だけではなく個人生活面も含めて考えられます。

そのように考えると、最低限のライフスキルを身につけておくことが望まれます。ライフスキル（身だしなみ、炊事、洗濯、掃除、買い物など）はある程度一人で生活できるための最低限のスキルです。

大人の障害者の相談を受けていると「仕事がうまくいかない」という声と一緒に「仕事以外の部分で困っている」という声をよく聞くそうです。それ以外の部分というのは、例えば遅刻・欠勤をしないことや職場に適した服装をすること、体調不良を上司に伝えること、休憩時間にうまく休憩することなどです。これらのライフスキルを大人になってから身につけようとしても定着した習慣を変えるのは難しいのです。ですので、子どもの頃から支援することが大切です。離職する場合は、仕事のスキル不足よりもライフスキルの不足が問題になることが多いという現実を我々は知っておかなければなりません。

「発達障害の子のライフスキル・トレーニング」では、以下の 10 項目を挙げています。

1. 身だしなみ…髪型や服装など外見を整え、清潔にする。
2. 健康管理…肥満や睡眠不足などを防ぎ、健康を保つ。
3. 住まい…掃除やごみ捨て、整理整頓など。
4. 金銭管理…無駄遣いや借金を控え、計画的に使う。
5. 地域参加…家庭と学校だけでなく他にも参加できる場所をもつ。
6. 余暇…休み時間や休日を快適に過ごす。
7. 進路選択…先の見通しを立てて行動する。自分に合った道を探す。
8. 対人関係…できる範囲でマナーやルールを身につける。
9. 外出…予定した時間や行先、費用などを守って移動。
10. 法的な問題…悪質な訪問販売などによるトラブルを避けるスキル。

ライフスキルは、日常生活の基盤となるものです。学力や運動能力、ソーシャルスキルなどをどれだけ身につけても、鍛えても、生活習慣や生活リズムが乱れていては、能力を十分に発揮することができません。ライフスキルの習得に取り組むことが大切です。

<参考文献>

- ・桑田良子・渡邊 章著 「発達障害者・知的障害者が働き続けるために必要な要因の検討」植草学園大学研究紀要第 7 巻 2015
- ・岩手県総合教育センター特別支援教育室編 「キャリア教育の視点からみた授業づくり」特別支援教育ステップアップ研修講座Ⅲ 2007
- ・諸富祥彦著 「7つの力を育てるキャリア教育」 図書文化 2007
- ・梅永雄二著 「発達障害の子のライフスキル・トレーニング」 講談社 2015